

試験で使える小技

～ 「提案」は「タダなもの」だから「×」になりにくい～

福祉系資格試験の事例問題では、選択肢の文末に「～を提案する。」や「～を提案した。」といったような感じで「提案」が含まれているのをよくみかけます。その正答とみると、「×」になる場合もありますが、「○」になることの方が多く感じます。提案は、単に「案を提示すること」なので、利用者を実質的な被害(悪影響)がでないため、「×」になりにくいといえます。仮に真逆の提案をしても、利用者が拒否すればいいだけの話です。

★★★

面接場面や営業活動などでは、提案を繰り返すことによって、相手の真のニーズにつなげていく場合もあります。なぜ繰り返すことができるか。それは「提案」は、相手だけでなく、自分にとっても、何の被害も受けない「タダなもの」だからです。

★★★

さすがに、「旅行先は、絶対に海外！」と言っている相手に、「北海道」「沖縄」「京都」などの国内ばかりを提案していたら、嫌われるでしょう。ですが、その提案自体で海外旅行ができなくなったわけではなく、相手に実質的な被害もありません。しいて言うならば時間がもったいないくらいですね。

★★★

ですから、試験で出題された各選択肢の文末をみて、「～を提案した」があった場合には、その選択肢は「○」の可能性が高いと捉え、優先的に確認してみるといいでしょう。

★★★

なお、「職員の提案として、最も適切なものを1つ選びなさい。」というパターンの問題については、基本的に事例形式で出題されます。このパターンの問題の場合、事例文に「答え」もしくは「ヒント」が記述されていることがほとんどです。「～を希望している」や「～に困っている」という利用者や家族の心情が含まれている記述を確認しましょう。利用者の希望がそのまま記述されている選択肢が「○」となる可能性が高いです。

福祉試験対策工房&ぼぼ屋は、FacebookやInstagramも開設しています。

 @fukusitaisaku_boboya

 fukusitaisaku_boboya

★「いいね」「フォロー」大歓迎です！是非ご覧になってください★

